

# 第6回 伊丹市幼児教育ビジョン策定委員会

## 議 事 録

伊丹市幼児教育ビジョン策定委員会

平成 29 年度 第 6 回 伊丹市幼児教育ビジョン策定委員会

- 1 日 時 平成 30 年 3 月 12 日 (月) 17:00～20:00
- 2 場 所 伊丹市役所 3 階 議員総会室
- 3 出席者 **【委員】**  
出原委員、卜田委員、富岡委員、市川委員、伊藤委員、大西委員、  
佐伯委員、藤本委員、馬殿委員、林委員、細川委員  
※大方委員、阿嘉委員、谷口委員は欠席  
  
**【事務局】**  
木下教育長  
教育委員 江原委員  
二宮教育次長  
幼児教育施策推進班 村上参事、佐藤参事、谷澤参事、矢田主幹、  
大村主幹、樹山主査  
学校指導課 廣重課長
- 4 傍聴者
- 5 次 第
  - 1 開会
  - 2 議事
    - (1) 議事録署名委員の指名
    - (2) 伊丹市幼児教育ビジョン (案) について
  - 3 閉会

## 議 事 記 録

### 1 開会（省略）

### 2 議事

#### （1）議事録署名委員の指名

会 長： 本日の議事録にご署名を頂く方についてですが、名簿順にお願いさせていただくということで、E委員とA委員にお願いしたいと思います。E委員とA委員、よろしいでしょうか。

#### （2）伊丹市幼児教育ビジョン（案）について

会 長：伊丹市幼児教育ビジョン（案）の最終確認について、説明してほしい。

< 事務局より 伊丹市幼児教育ビジョン（案） に基づいて説明 >

会 長： 全体に対しての意見があれば先に確認したい。

F委員： 書面開催の議事録は、どのように残るのか。

会 長： 事務局は、書面開催での意見集約をどのようにするのか。

事務局： 各委員からの意見を議事録として起こす予定はないが、提出された意見は事務局で保管する。

F委員： カリキュラムの進捗状況はいかがか。

事務局： 0歳から5歳の各グループで最終確認をしている。中でも、「愛情」「自然」「ことば」のキーワードについて、どのような教師の援助が必要かを議論している。

会 長： 9頁「幼児教育の基本理念と育てたい子ども像」の項目で、案を示しているが、吹き出しで表現している意見もあった。この項目の整理をしたい。

「愛情」の項目では、「自分や周りの人に愛情をもち主体的に活動する子ども」が案としてあり、「主体的に活動する子ども」「夢中になって遊びよく考える子ども」という文言が入っている。

「ことば」の項目では、「しなやかに人とつながり表現する子ども」と記載していたが、「心豊かに人と関わる子ども」というニュアンスも入れてはどうかとの意見があり、どのようにすべきか。

F委員： 「主体的に活動する子ども」は、「愛情」の頁にも同じ文言があるため必要ない。

会 長： 「夢中になって遊びよく考える子ども」という文言を、どこに盛り込むか。

F委員： 「夢中になって遊びよく考える子ども」は、3つのキーワードすべてにかかるため、3つの下に記載してはいかがか。

I 委員： 吹き出しではなく風船のようにつながればよい。

会 長： 「夢中になって遊びよく考える子ども」と「心豊かに人と関わる子ども」が基本となる。全体に関わる事項として枠外に記載するか、この項目が土台となり、その上に3つのキーワードが乗っているという表し方もある。

K 委員： 「愛情」「自然」「ことば」の詳細は後ろに記載があるため、この頁はシンプルで、読むというより視覚で認識できる程度でよい。

会 長： シンプルな方が伝わりやすい。

G 委員： 全体にかかる表現であるため、下に記載するか、中に入れるか。

F 委員： 文字が小さく見にくいいため、写真を掲載せず大きな丸3つで表現してはどうか。

会 長： 「愛情」「自然」「ことば」の内容が吹き出しの内容が変わると、ニュアンスがずれる。項目のどこかに入れるか、「育てたい力」の中にこの文言を入れる方法もある。いかがか。

E 委員： 9頁の中心にある「愛情」「自然」「ことば」に記載のある内容と、それぞれの頁で記載している内容との整合性は図れているか。9頁に記載すると窮屈になるため、キーワードのみとし、それらを基にした「育てたい子ども像」があるとすれば、結びつくと思う。

会 長： 事前にある「愛情」「自然」「ことば」の説明と、その内容との整合性が優先されるべきである。

また、全体に関わるものを入れるか否か。これまで一切議論していない内容が、この項目で突然出てきて良いのかという議論もあるため、「育てたい力」にスライドした方がよい。いかがか。

もう1つ議論しなければならないこととして、「育てたい力」をどうするか。「愛情」「自然」「ことば」の3つのキーワードとの関わりもあれば、それ以外の部分もある。

F 委員： 2頁に「愛情」「自然」「ことば」と同じようにあるため、この箇所も合せ、その周りに、「夢中になって遊びよく考える子ども」等を入れるのはいかがか。団子3つで違うバージョンがあると紛らわしい。

会 長： 子どもの立場で考えるか、大人の役割として明示するかが不明確な部分がある。各キーワードで大人の役割と子どもに期待することが分かれているということであれば、2頁はキーワードの説明であり、9頁は子どもに期待する内容となる。質は異なるが形が似ているため、整理する必要がある。

何回も同じ説明があるのはわかりにくい。

H 委員： 3つのキーワードをどのように扱うのかに関し、「夢中になって遊びよく考え

る子ども」はすべてにかかるという意見があったが、残り2つは必要だと思う。基本になるイメージで、「夢中になって遊びよく考える子ども」を入れる。この時期に育てほしい子どものイメージで、その中で、「愛情」「自然」「ことば」に関して、今のこの言葉でもよい。

会 長： 土台として示す文言があり、その上に3つを示していく。今記載しているキーワードが、これまでに記載されている内容と大きく反しているものではないと理解している。この形で整理する。

F委員： 「夢中になって遊びよく考える子ども」が育てたい子ども像でもよい。この3つのキーワードにより、「夢中になって遊びよく考える子ども」になる。

H委員： 土台という表現が良くなかったかもしれないが、総括という意味である。絵で表現しようとする、3つが柱になり総括として上に表現する方法もある。また、「愛情」「自然」「ことば」が発展して3つがある。どちらで捉えるかではないか。

F委員： 並べれば重ならない。

H委員： 現状のように3つを重ね、中心にこの言葉を入れる。

A委員： 今の社会をたくましく生きていくために必要となる力に関しては、「はじめに」で記載がある。伊丹市はこのような子どもを育てたいという姿があるからこそ、3つのキーワードを大切に、幼児教育を行うということを示してはどうか。どういふ子どもを育てるのが始めにあり、この3つを大切にするという順序ではないか。

会 長： A委員の意見については、いかがか。

K委員： この会議では、「育てたい子ども像」を一言で語れないため、3つのキーワードの中でそれぞれ語るという認識だった。例えば「夢中になって遊びよく考える子ども」という子ども像をつくりたいため、「愛情」「自然」「ことば」が下にあることは、私の認識では違う。3つの大項目に当てはめて語っていると思っていたので、それぞれが大きな項目だと思っていた。

C委員： 言葉はできるだけシンプルな方が、それぞれが深みをもって考えることができる。語りすぎると、かえって固執してしまわないか。様々な子どもがいるため、シンプルにし、各立場、各生活の中で考えていく方がよい。

会 長： たくさんある中で、この3つの視点を持つことにより、めざす子ども像を読み取れるようにという考え方と、まず、「育てたい子ども像」があり、それを具体化するためにこの3つを大事にしようという考え方がある。

F委員： 本会議では、先に「育てたい子ども像」を決定していない。「愛情」「自然」「ことば」を先に議論したため順番は変えられない。

会 長： 3つのキーワードを見た中で、このような子どもの姿が得られるという発想か。

F委員： 「夢中になって遊びよく考える子ども」が「育てたい子ども像」だと思う。

会 長： 1つは3つのキーワードの全体を示すということで、「夢中になって遊びよく考える子ども」を入れる。もう1つは、「夢中になって遊び」という部分を、「愛情」の項目の文章に盛り込み、「自然」「ことば」の項目に、「よく考える」という部分を盛り込む方法がある。全体に関わるということで整理してよいか。

H委員： 順番の話だが、伊丹として3つのキーワードを大切にするという議論から始まった。各キーワードの議論をした後、実際にどのような子どもを育てたいのかだが、単純に、9頁では「愛情」「自然」「ことば」が上にあるので、どうしてもそこから入ってしまう。ここまでのところは、伊丹が大事にしたい3つのキーワードについて理解してもらおう。その上で、育てたい子ども像は、例えば、「愛情」の項目では、「自分や周りの人に愛情をもち主体的に活動する子ども」に育ってほしい。「自然」も同じように、「愛情」という言葉があるので、それまでの「愛情」とつながってしまっている。

会 長： タイトル的に3つのキーワードを入れるというよりも、文言の後ろに括弧書きで「愛情」と記載するなどか。

H委員： 単純に下に記載してもよい。

D委員： 2頁に「愛情」「自然」「ことば」の図がある。この図について、「育てたい子ども像」で対応関係を示すのであれば、もっと前で記載すべき。あるいは並べるという形にしなければ唐突感がある。「愛情」を説明するのは、「尊い命と異なる個性とのふれ愛」で、子どもの姿としては、「自分や周りの人に愛情をもち主体的に活動する子ども」ということで使っている。その部分がはっきりとわからないため、これは何かという気がする。実際、「愛情」「自然」「ことば」という3つのキーワードを考えた上で、そこから育てたい子どもについて議論した。見せ方が重要である。

会 長： 対応関係とのことで、前に記載するのか説明した後に対応しているのか、どちらのあり方もある。少なくとも、このように対応しているということが見えないと、同じような図、色で違う内容が記載されていると、確かに唐突感が出る。

例えば、考え方として、3つのキーワードがあり、その直後に、「育てたい子ども像」が3つの言葉で出てくるという表し方がある。また、「愛情」「自然」「ことば」の中身をよく理解してもらうために、そこに向かうための論理を3頁以降に記載するという方法もある。あるいは、3・4頁で「愛情」の項目について記載した後、育てたい子ども像を入れる等、それぞれの説明の中に一旦入れ、それぞれのキーワードでは、このようなことを育てたいという文言を記載し、9頁で再度、図としてまとめ直すこともできる。

D委員： 主語が子どもなのか大人なのかで、3頁以降、私たちはどうするという話に

なっている。その中でも、子どもがどうかという話も入っている。主語がはっきりわからない状態で説明した後に、急に育てたい子ども像が表れるとどうなるのか。

J 委員： 2 頁の図と 9 頁の図の整合性、3・5・7 頁の整合性の話だが、例えば 2 頁に「愛情」「自然」「ことば」があり、「愛情」は「尊い命と異なる個性とのふれ愛」、「自然」は「身近で豊かな自然とのふれ愛」、「ことば」は「豊かで美しいことばと表現とのふれ愛」ということを通し、育つ子ども像では、「愛情」であれば、「自分や周りの人に愛情をもち主体的に活動する子ども」が育つということになる。ということであれば、2 頁に吹き出しがつくなら、そういう子ども像、もしくは 3・5・7 頁に「愛情」「自然」「ことば」があるが、「愛情」の項目で、育てたい子ども像は、「自分や周りの人に愛情をもち主体的に活動する子ども」を育てるためにという表題があり、その下についてくるのは、「私たちは〇〇〇をします。」となる。このような整理により、2 頁の図に入れ込むという方法もできる。3・5・7 頁の冒頭に、「そういう子どもを育てるため、私たちは〇〇〇をします。」

F 委員： 4 頁に「尊い命と異なる個性とのふれ愛」というタイトルがあり、最後に、「伊丹市は自分や周りの人に愛情をもち主体的に活動する子どもに育てます。」で締めくくるとよいのではないか。

会 長： 4・6・8 頁の最後に育てたい子どもの姿を書込み、9 頁で整理される発想か。

主語の問題として整理するが、考え方が 2 つある。2 頁の 3 つのキーワードで育てたい姿を先に出す考え方と、3・5・7 頁で説明があるため、それぞれの最後に育てたい子ども像を出す考え方がある。

大人と子どもの役割の記載内容を確認すると、「愛情」「自然」「ことば」の項目で、1 つめ、2 つめ、3 つめときれいに分かれている項目とそうではない項目がある。どのような構成にすれば読み手にわかりやすいのかにより、大人の役割と子どもに期待したいことを、3 頁以降で切り分ける表記に再度整理するのかどうか併せて議論したい。いかがか。

K 委員： 構成の問題も多少あるが、「育てたい子ども像」を実現するため、本市はこのようなことをしますという流れになる。始めに「育てたい子ども像」があり、このような子どもを育てるため、このような愛情があり、その中で、1、2、3 ということをしていけば育てたい子ども像が出てくるが、このような子ども像を描くには大人の力も必要である。敢えて大人と子どもを切り分ける必要もない。このような議論になる理由は、順序が異なるため、いろんな目線で粗が出てくる。構成のみの問題である。

会 長： 他にいかがか。

H 委員： 今回の議論は、「伊丹らしい」というキーワードから始まった。伊丹の子どもを育てるために特に大事にする 3 つのキーワードをあげたため、違和感はない。この 3 つに対し、大人と子どもを分けるという整理は必要だが、それぞれ説明がある。その後に、「育てたい子ども像」は何かということで、「愛情」「自然」

「ことば」の下に、3つの言葉以外もある。その中で、「自分や周りの人に愛情をもち主体的に活動する子ども」は、これは3つのキーワードのうちの「愛情」を基本として展開していると受け取っている。

それよりも、「育てたい子ども像」を前に出し、3つのキーワードを出し、「育てたい力」につながっていく。その後、再度、「愛情」「自然」「ことば」につながうとすると難しくないか。

K委員： それは会議の中の議論の順番である。始めから「育てたい子ども像」が出ない中、伊丹の特色を「愛情」「自然」「ことば」という題材から見つけていくことになった。冊子の内容に、議論の順番は関係ない。

F委員： 2頁にある「愛情」「自然」「ことば」の中心に、「夢中になって遊びよく考える子ども」を記載してはどうか。

4頁最後に、「自分や周りの人に愛情をもち主体的に活動する子ども」にしていけばよいのではないか。

H委員： ここを統合することは良いが、「育てたい力」をどう扱うのか。「育てたい子ども像」と、具体的にどのような力を育てたいのか。「育てたい力」が必ず必要だという議論があったため、これら全てを網羅した構成を考えると、この構成になるのではないか。

F委員： 「育てたい力」の頁は唐突であり、「育てたい力」の説明もあまりないため、なくしてはいかがか。

H委員： 会議では、「育てたい力」と「育てたい子ども像」が必要であると結論が出たため、「育てたい力」と「育てたい子ども像」の頁が見開きでなければ無意味である。この2つを合せた構成を検討すると、一番に出すか、そうでなければ違和感がある。

I委員： 「育てたい力」はこれまでの会議で、先に「愛情」「自然」「ことば」を議論した後に、何を育てたいのかという議論になったため、「愛情」「自然」「ことば」からはつながらない「育てたい力」がある。答申の中に盛り込む必要がないのであれば、「愛情」「自然」「ことば」の項目にすでに盛り込まれているため、十分である。敢えて盛り込むと、言葉が多くなり誰も読まない。どうしても「育てたい力」をどこかに盛り込む必要があるのならば、「愛情」「自然」「ことば」の項目に記載する。

会 長： 構成の問題から整理すると、まず、「伊丹ならではの」という柱が必要か否かという議論は、1頁、2頁で「伊丹ならではの」のキーワードは、「愛情」「自然」「ことば」だということを述べ、3頁の「育てたい子ども像」に、「愛情」「自然」「ことば」の3つのキーワードが示された大きな方向性を記載する。その後、「愛情」「自然」「ことば」に関する具体的説明を行う。その3つの項目で、「育てたい力」の内容は、すでに文章の中にちりばめられている。このような構成とした際の課題は、ビジョンに「育てたい力」を記載することをどの程度まで要求されるのかである。



A委員： 「育てたい力」の頁の話だが、13・14頁に、青字で書いている文言と重なるものがたくさんある。「育てたい力」は記載されている以外にも多い。子どもの姿に重ねて記載している内容のすべてが、「育てたい力」であるため、改めて書く必要がない。

D委員： 最終的には、3頁に「育てたい子ども像」を対応関係で示せることが大切である。今は何も示されることなく「育てたい子ども像」が出てきている。9頁に説明がない。他の頁は前段の話があり、なぜそれに至ったのかがわかっている。我々がこの3つに至った結果を記載し、その後には解説があれば、よく理解できる。

会 長： 意見等を集約すると、1・2頁で3つの柱を示し、その上で、3つのキーワードを考えたときに、伊丹市の幼児教育の中で育てたい子どもの姿は、「愛情」「自然」「ことば」の各項目に記載された中身であるということの記載がある。次の頁から、「愛情」「自然」「ことば」の各項目について、子どもたちに育てたい力あるいはそのために大人が果たす役割について説明をするという文言を入れ、今現在の3頁以降の内容を「愛情」「自然」「ことば」の各項目について示す。この構成で整理していくことで、いかがか。  
事務局に確認するが、10頁「育てたい力」で記載している内容が、3・4頁で説明する構成でも問題ないか。

事務局： 「愛情」「自然」「ことば」の項目に色々な力が含まれているため、敢えて取り出す必要はない。頁割りを再度考える。

会 長： 基本的にそのように整理をする。  
最終確認だが、1・2頁は現在の内容とする。その次に現9頁の内容とし、3・4頁以降の説明をする。その上で、「夢中になって遊びよく考える子ども」という文言を入れるか否か。11頁以降に「遊びを通して学ぶ」という説明があるため、11・12頁につながるものとして、夢中になって遊ぶことにより、このようなことが育つという内容をどこかに入れる必要もある。その場合、「愛情」「自然」「ことば」を団子3つで並べるのか、トライアングルの形にし、その中核に、「夢中になって遊びよく考える子ども」「心豊かに人と関わる子ども」を入れてもよい。

H委員： 頁割りが気になる。現9頁は、内容を再考する必要がある。吹き出しで記載している内容以外にも「育てたい子ども像」が必要である。必ずしも、「愛情」「自然」「ことば」に結びつける必要はない。

K委員： 背景・目的・手法・結果の構成が必要となる。背景は、「はじめに」の部分で記載がある。目的は、このような子どもにする。その目的を達成するために、手法があって、その手法は、本市の取組内容になる。結果、伊丹市ではこのような子どもが成長するということになる。この案では目的と手法が混在している。

J委員： 手法では、主語を子どもにした場合、夢中になって遊ぶ以外にない。主語を大人にした場合、このようなことを大切にすることを視点を組み立てるということに

なる。今回、組み込むならば、夢中になって遊ぶ仕組みとは何か。以前の会議でも出たが、空き地の使い方や公園の使い方、色々な材料をどのように使うのかが入っていない。夢中になって遊ぶとは子どもの方法論であり、それをサポートすることとして法整備や使い方・サポートがあれば、「夢中になって遊ぶ」ということの具体的な組立が見える。

D委員： 手法・目的のカテゴリーがあり、主語が大人・子どもとなり、各カテゴリーに何が入るのかを整理すれば全体像が見える。カテゴリーで分けてはいかがか。

会長： 手法については、15頁以降に、伊丹市と実行する内容を示す構成となる。そこに向けてという箇所では、3頁から8頁の内容が、子どもに育てたい力や大人の対応論のような基本が混在している。手法・目的のすべてが入ってしまっている。

個のキーワードで3つの柱があり、その後どのような力を育てていくのか。その上で、それは遊びを通して行い、市の取組内容を記載する構成となる。ただ、つながりがいまいな部分があり見えにくい。特に、「遊びを通して学ぶ」という文言は大切だが、唐突感もある。このビジョンでは、全体を統括するような大きな方向づけができていない。そのように考えると、「育てたい子ども像」を前に出すとしても、その中に、遊びを通してやること、そのために市がやることはこうだということが必要になるだろうし、場合によっては3頁に9頁の内容を移し、新4頁に、この3つの構造について、「愛情」についてはここでというように。だから目次が前にありますけれども、その後の構成についての説明が入るようにしても良いかもしれない。育てたい3つのキーワードの子どもの育つ道筋について、大事にしたい、育てたい力は、何頁に「愛情」のこと、何頁に「自然」、何頁に「ことば」のこと、それを遊びを通して行うことと、それは何頁に書いてあるということ、それを伊丹市として取り組むことはこうだというように、今、言っていたストーリーそのものを、育てたい子ども像の隣の頁に示し、この冊子はここを見ればこれがわかるという構成にすれば、ストーリーの手の内がバツと見えるようになる。そうすれば、1頁、浮いてどうしようという問題もなくなると思うが、いかがか。

会長： よろしいか。今の9頁の内容を3頁に持ってくる。今の10頁の内容はなくなる。以降の冊子の構成を示す構造図を示すと、これで全構成がわかる。そうなってくると、「夢中になって遊ぶ」という文言は入れておかないと、「遊びを通して」というところが出てくる根拠がなくてなってしまうので、「夢中になって遊びよく考える子ども」というところは、置いておく必要がある。「夢中になって遊びよく考える子ども」だけで良いのかどうか。「遊び」の部分があるのであれば、人間関係の部分は入れておく必要があるのか、それは、「愛情」「ことば」等に入っているから、出すと余計ややこしくなるからやめておくのかということだが。入れない方がシンプルな気がするが。

そういう形にする。

輪が3つ重なったところにいくのか、それともトライアングルの中に置くのかということ。ただ、目標と、子どもにとってと、大人にとってということを切り分けるという形で考えるのであれば、別次元に置いた方がわかりやすいのか。

G委員： 3つ重なって真ん中に置くのが良いと思う。遊びについても後半で入ってくるし、全体的にかかるので、真ん中だと思う。

J委員： 今の部分でいうと、おそらくトライアングルにした方が書きやすい。整理は見やすくなる。トライアングルにすると、1つ1つの丸ははっきり見えて、そこに項目としては入れやすいし、真ん中の「夢中になって遊ぶ」もわかりやすい。トライアングルにしたら意味が通じなくなるかという、実はそんなことはない。やはり重なっているし、被ってくるということは伝わると思うので、言葉を入れ込んでいくとトライアングルの方がデザイン的にすっきりすると思う。

D委員： 人間は遊びを中心にいろいろ学んでいるということを原点とし、子どもは遊びが人生の学びであるというようなつながりが見えるような文言を入れれば、伝わりやすい。

会長： 新たな3頁で、3つのキーワードを使ってトライアングルを基本にする。  
新たな4頁には、その後に続く構成を書き込む。3頁で遊びが基本であるということがわかる文言を、具体的な説明は現在の11頁以降に、遊びが応答して学んでいるということがあるので、そこにつながるような序文的な文章が新たな3・4頁に入れる。この形に変えていくことで良いか。

《異議なし》

会長： 「育てたい力」は新たに書き足すのではなく、「愛情」「自然」「ことば」の各項目にある。大人の関わり方の基本も併せて書いている。ということで、新たな頁をつくっていく。

H委員： 先ほど2頁と9頁が後に来るという話で、トライアングルと丸の話があったが、できたら同じ形になる方が良い。  
もう1つは、そもそも遊びが大事だということを知ってもらう必要があるため、11頁で「なんで遊びは必要なの？」という問いかけのような文言を大きく、細かくそういうことなのかという頁にすると良い。

会長： 11・12頁で問いかけるということもあるし、新たな3・4頁で、「遊びを通して」「なぜ遊びが大切なのでしょう。11頁をご覧ください」のような構成でも良い。問いかけは重要な意見である。  
育てたい子ども像のあたりはこのような形で整理する。

会長： 細かく議論する必要がある個所を事務局から説明してもらったので、冒頭の表紙から議論する。  
ただ、大人の役割と子どもの役割を明示するのかというあたりについては、細かく整理していくという方法もあると思うが、混在していることを一定認めていくという話の流れであった。そこは読み取ってもらうという形にしていくような方法かと思うが、いかがか。  
あと、文言として言い切るのか含みを残した形でやわらかくした形もあるかと思う。特に、「このようなことを願っています。」というような緩やかな書き方

をするのか、「こうなんだ」というふうに言い切ってしまうのか。言い切った方がはっきりするという意見もあるし、少し緩やかにしておかないと縛りが出てくると身動きが取れなくなるということもあるので、それをどうしていくのか。

表紙だけでなく全体に関わることとして言えば、「ふれ愛」で「愛」を漢字にしているところがあり、行政文書としてはあまり使わない。キャッチフレーズ的な文章として使っている。そういうことを分かりやすくするために鍵括弧の中に全体を入れて、敢えてこの言葉を前面に押し出していくのかどうかというあたり、3点くらいを全体として議論したい。

会 長：子どもの役割と大人の役割についての整理はいかがか。「愛情」「自然」「ことば」の3つに関しては比較的混在しているが、切り分けて表現するとすると、「育てたい子ども像」がはっきりし、縛りが強くなる。そのため、現状どおりとし、緩やかにしておく方法もある。

F委員： 私はこのままでよい。3つのことと言ってしまうと同一種類のものと捉えられるので、「次の事を」にして、黒丸などにすればよい。

会 長： 「愛情」については大切にする3つのことがありますと書いている文言を、「愛情」については次のことを大切にしますという言い方に変更する方が良いのでは。3つのことと言いつつ、その3つが同じニュアンスに伝わるので、非常に硬く捉えられるのではないか。これも全体にかかることだと思うが、緩やかにするのであれば、3つのことと言いつつのは避けた方がいいだろうという意見である。

よろしいか。3・5・7頁で「大切にする3つのことがあります」を「次のことを大切にします。」という緩やかな言い方に振り替える。

会 長： 言い切るのか、やわらかく含みを残すのか。

H委員： ビジョンの位置づけにより変わる。今後、カリキュラムは並行し進むため問題ないとし、カリキュラム以外にも教育方針などの基本となるものであるのか。今後、伊丹市としてビジョンをどう取り扱うのか。

事務局： ビジョン・カリキュラムは伊丹市の大きな方向性であり、各園の理念やカリキュラムは各園の考えを大事にしたい。事務局としては言い切るよりも、市としての大きな方向性を示すものだと考えている。

会 長： はっきり言い切っている箇所がある。特に質の高い幼児教育は遊びを大切にし、子どもたちが体験を通して学ぶことだと述べている部分は方針である。言い切りすぎると逆にしんどくなるという部分もあるので、言い切るところは限定的に置いておいた方がいいのではないか。

今くらい緩やかな形を残して進める。

会 長： ふれ愛を括弧に入れるかどうか。

H委員： 地域では、ふれ愛という言葉は一般的である。特に福祉関係では、わざとこの文字を使っているため、比較的言葉に対しては、わざわざ括弧を付ける必要

はない。

会 長： 括弧に入れると自然でなくなるため、このまま何もせずに進める。

会 長： 1・2 頁「豊かなふれ愛でひろげる幼児教育」「つなげる幼児教育」の2つの意見があったが、いかがか。

F 委員： 「つながる」「ひろげる」の両方があった方が良い。

H 委員： 「つなげる」、「ひろげる」ではなく、「つなげる」、「ひろがる」幼児教育がよい。

F 委員： 「つなげる」のは自然で、「ひろげる」のは自分で広げるのではないか。「つながる、ひろげる」がよい。

I 委員： 「つながる、ひろがる」が主体的である。

K 委員： 「つながる」には「ひろがる」も含まれている。

E 委員： キーワードで出している「ふれ愛」も、「つなげる」と意味が重なる。「ふれ愛」で「つながり、ひろがる」がよい。

会 長： 「ふれ愛」は人とのつながりを意味しているため、「ふれ愛」でつながるというよりは、触れあったからひろがると、「つなげる」のニュアンスを「ふれ愛」に入れる方が良いということを考えれば、「ふれ愛」でひろがる。「ひろがる」の方が、色々な立場の人が出ていっているというイメージがある。

H 委員： 緩い世界で通すのであれば、「ひろがる」が良い。

会 長： 「ひろがる」で統一する。「豊かなふれ愛でひろがる幼児教育」とする。

会 長： もう1点だが、2 頁「ことば」の項目で、「豊かで美しいことばと表現とのふれ愛」とするのか、「豊かで美しいことばや表現とのふれ愛」のどちらにするか。

J 委員： 言葉にならない言葉がある。言葉というと、話す言葉と、感性など音にならない言葉があるため、「ことばや表現」の方が豊かな感じがする。

I 委員： 「ことば」は「表現」に含まれないか。

会 長： 「ことば」は「表現」に含まれる。

D 委員： 口で発する言葉、手話でする言葉、ジェスチャーでする表現は、別々というか、含まれているようで含まれていないという意味で了解した。

H 委員： 幼児期を意識したものだと思う。小さくて言葉を話せない、周りの大人が感じると意識した。

I 委員： 領域が言葉と表現に分かれており、重なっているのではないか。

会 長： 「ことばや表現」とする。

会 長： 次に3頁だが、「根っこ」「土台」のどちらで表現するか。

H 委員： 「根っこ」は範疇が割と小さい。「土台」の方がしっかりした形である。上に物を載せるのか、自分が建つのかという、そういう考え方だと思う。ここで使われている基本は、のせるベースがどういうものなのかというところだと思う。上がしっかりするという話ではないと思うので、「土台」の方が良い。

会 長： イメージとしてもそうだ。「根っこ」というと自分の一部だから、「土台」も一部と言えばそうだが、その上にたつということもある。全体を「土台」で整理することとする。

会 長： 3頁の下の赤字になっているところ、「様々な人から愛情を受けた」というところが上の2行とかぶっているのではないかという意見がある。この赤字の部分を残すのか切ってしまうのか。ここはなくしていくということで進める。

会 長： 4頁の下。「伊丹市は子どもを愛情で支え」というふうに行くのか、「子どもの個性を尊重し」というふうにするのか。他のアイデアとしても、例えば、「子どものありのままを尊重し」という言い方もできる。このあたりはどのような文言でいく必要があるのか。愛情というキーワードを直接的に行くのであれば、原案を採用する。この中で書かれていることなどから、条件付きの愛情でないということからいけば、「個性（ありのまま）を尊重する」という方法もある。

H 委員： 6・8頁との兼ね合いだと思う。4頁だけ個性に替えてしまうのはいかななものか。

会 長： 一貫した流れでいうと、「愛情で支え」というところ、その愛情の中身であったり、誰がとということに関しては、その前にかなり広くみんなで支えようということが書かれているので、原案どおり愛情という言葉を大事にするという発想で良いか。

J 委員： 4・6・8頁と見ていくと、8頁だけテイストが違う。そういう意味では、「伊丹市は、子どもを愛情で支え、子どもの個性を尊重していくことを願っています。」とか。「願っています」という言葉を最後のメに持ってくるのか、同じテイストにした方が良い。8頁だけ色々なキーワードが入っていて、確かに「くんじゅう」というキーワードを大切にすることもあるが、3つの重みづけが違うので、整えた方がよい。

8頁がとても良い内容だと思う。8頁のような言い方が4・6頁でできないのか。

会 長： 8頁と4・6頁のところは、「ふれ愛」というキーワードの使われる位置が違う。8頁は「ふれ愛を通じて」である。4・6頁も、「ふれ愛を通じて～」とい

う文章にしていくと、統一できるというところはある。例えば、「伊丹市は子どもと様々なふれ愛を通じて、子どもの個性が尊重され」のように。あとは、愛情をどう位置づけるのかということになる。「子どもたちが愛情で支えられ、個性が尊重されることを願っています。」というような文言になる。「ふれ愛を通じて～」という形で文言を整理していくこととする。

4頁は、「伊丹市は子どもと様々なふれ愛を通じて、子どもたちが愛情で支えられ、個性が尊重されることを願っています。」でいく。

6頁の自然はどう整理するか。「畏敬の念」と「面白さ、美しさ、不思議さ」の順序はどちらが先になるのか。「畏敬の念」を持つということをもずおいて、その中で、「面白さ、美しさ、不思議さ」ではないかという意見もあったし、原案は、「面白さ、美しさ、不思議さ」を感じる。同時にその中で畏敬の念を持つということにつながっていくということになっている。いかがか。

I 委員： このままでよい。①、③、②が教育要領等で一般的な順番である。少し加筆する必要はあるが。

子どもの育ちの中で、見て、うわ、すごい。というところから、次、触れていって、最後に色々なことを通して畏敬の念を持つというところにつながる。

会 長： では、その流れでいく。加筆は例えばどのようなものになるのか。

I 委員： ③の自然との出会いによってのところ、「出会い・ふれ愛によって、」興味・関心と入れて、「豊かな感性、好奇心・探求心、思考力、表現力の基礎、美的感覚、科学性の芽生えなどが培われます。」。なぜ、このようなことを言うかというのと、美的感覚、科学性の芽生えは一般的に環境教育につながる。幼児教育では、あまり環境教育とは言わないので、これは入れておいた方が良かった。畏敬の念を持つというところにも、美的感覚、科学性の芽生えはつながることである。

会 長： 今の意見の修正を加えていくということで、いかがか。よろしいか。そうなりますと、一番下の、「伊丹市は、子どもと「自然」とのふれ愛を通じて」、何を育てるのか。

I 委員： 豊かな感性と生命の尊さみたいな。自然にふれるということは、子どもたちが泥を触って、5感を通して面白いという感性を育てていく側面と、命が朽ちていくなど色々な姿を見ていくという中で、畏敬の念につながるような生命の尊さみたいなところの2つが大きくあるから、それがあればよい。

会 長： そのキーワードが9頁にある「生命を大切にし豊かな感性をもつ子ども」につながる。その言葉は育てたい子ども像のところとの関係で、「豊かな感性と生命の尊さを感じられる心の成長を願っています。」というようにところで調整する。

会 長： 7・8頁の「ことば」の項目だが、タイトルが「ことばや表現」に替わる。あと、8頁で「しなやかな表現」とあるが、「柔軟な」に置き換えてはどうかという意見がある。ただ、「柔軟」と「しなやか」はニュアンスが違う。「しなやか」という言葉を日常で使うことはあまりないのかもしれないが、教育・保育

では結構使う。折れそうで折れない。芯はあるけど柔軟性もあるという意味で。「しなやか」という言葉を敢えて使うということが良いか。

あと、「くんじゅう」という言葉を仏教用語であるため、このまま使うのかどうかという意見がある。ただ、伊丹としてはこれまで大事にされてきたが、公的なところでこの言葉を使っているのか。

事務局： 言葉特区になったときから、「くんじゅう」のようなじわじわと広がることを大事にしていきたいということで使ってきたが、「くんじゅう」という言葉が伊丹市の中で出回っているかということ、言葉としてはどうかと言うことはあるが、そのようなことを大事にしていくということである。

I 委員： 前回、言葉特区の説明で入れたら良いと思った。宗教性を帯びた言葉でいうと、畏敬の念も、いわゆる神仏に対しての言葉が基本であるため、教育要領や、保育所保育指針を書くときにも非常に議論されて、最後は日本だから畏敬の念を持つという言葉を使うということになったという話を聞いた。愛も入れるか、仏教で使うときには慈愛なのか愛なのかという、議論が多くなされて、結局、今回は保育所保育指針なんかには、愛はパラパラと出てきてはいるが議論されてきた。今回は伊丹市のもので、伊丹市の中で、「くんじゅう」という言葉にこだわりがあって使われているのならば使っても良いのでないか。寛容という言葉もあるが、教育の中でしみ込むように育っていくということが、これがすぐに効果が出るものではないという意味で、こういう言葉を使っておく。だから、下の伊丹市は～」では使わなくても良いかもしれないが、今赤字になっている説明文は入れておいても良いと思う。

J 委員： もともとは、仏教あるいはキリスト教の背景があると思うが、ある意味文化としてなじんできた、使われてきた言葉である。逆に今は使わなくなってきた言葉である。いろんな文化や伝統の中で使ってきた言葉が、日本はだんだん薄れてきて伝わらなくなってきたということがある。こういう中で逆に使っていくということは、言葉を大事にしていくという意味においては、もっと色々な言葉があると思う。敢えてこういう言葉を使っていくということは、日本の文化・伝統が大事にしてきたという言葉として良いと思う。

会 長： 前回も、言葉として敢えて使うということも良いのではないかという議論もあったので、基本的には使う。ただ、下のキーワード的な箇所に入れるのかどうか。ただ、このキーワードを抜いてしまうと、上の赤字の説明だけでは、「くんじゅう」という言葉の説明が中途半端で終わる。「優れた人のそばにだけで」を「優れたことばの文化に触れる中で」に替えるとすっと通る。下の文に入れるとして、「くんじゅう」は「現れる」ものなのか。

I 委員： 「くんじゅう」されるでしょうね。「現れる」ではない。

会 長： 豊かな感性が子どもにくんじゅうされていくことを願っている。

D 委員： この部分は、明治時代の教育の中で、我々の教育というのは、どうするのかという部分である。実際に、そのポイントを教えたから、そのポイントができるのではなくて、そのポイントを教え学ぶことによって、周りのことができる



ようになるのかということ、延々と明治時代にしてきたわけだから、もし難しい言葉でいうのであれば、ここは現れるではなく、「陶冶(とうや)」と思う。だから、キーワードで、「いつの間にか衣服にしみつくように、知らないうちに感化されること」といくとすれば、私は「陶冶」という難しい言葉だが、説明を入れるなりして使った方が分かりやすいと思う。

G委員： どういう意味なのか。

D委員： 「そういうふうなものになっていきます」、要するに、感化されてそれに育っていくというような意味である。

G委員： もし、その「陶冶」を入れるのであれば、説明を入れて欲しい。

会 長： 「くんじゅう」もわからない言葉なので、二重構造になると難しい。

D委員： 「現れる」ということはピンとこない。

I委員： 「くんじゅう」だったら、「くんじゅうする」だろう。

会 長： 子どもにするとすると、大人の指導が高くなるから、「くんじゅうされるように願っています。」で調整することとする。

F委員： D委員がおっしゃったように、「いつの間にか衣服にしみつくように、知らないうちに感化されること」とした方が、言葉に限らず、「くんじゅう」の説明になる。「優れた言葉の文化に」とかもなくした方がわかりやすい。

会 長： 「優れた言葉の文化に触れる」というところはいかがか。この文言をなくしてしまった方が広がるが、何故言葉の文化の教育で「くんじゅう」を大事にしてきたのかという話になると、前の文章からつなげて読み取っていただく力が読み手に求められる構造になる。

F委員： その下の文章の説明に、ことばに触れあって、くんじゅうとして現れると書いているから、なくてもよいのではいか。

会 長： ただ、知らないうちに何に感化されるのかということが見えなくなってしまうかもしれない。ただ、言葉の文化とするのか、優れた文化と広げることでもできる。ここは、「優れた文化に触れる中で」で整理することとする。

A委員： 一番下の、「伊丹市は」の部分で「豊かなことば・豊かな感性」とあるが、自然の項目でも「豊かな感性」を使うのであれば、ここは表現にした方がよい。

会 長： 「豊かなことば・豊かな表現が」に替えることとする。

I委員： 文中のことばを括弧で囲っているところとそうでないところがあるため、整理が必要である。

会 長： 囲っている言葉の意味合いというのが、何を指しているのか。先ほどから議論になっているような、単に音声になっている「ことば」というよりも、もっと広い意味での「ことば」「表現」ということを含めてというニュアンスを持たせて括弧で囲っているというように読み取れるが。

I 委員： 最初の前文だけで良いかもしれない。

E 委員： 3頁の愛情の項目も括弧がついているところとそうでないところがある。

I 委員： 「かかわり」「ふれる」漢字かどうか。指針と同じで、「かかわる」は漢字で、「ふれる」はひらがな表記に。

会 長： 愛情、自然、ことばの項目では、前文は括弧を付けて、①②③に入っているものについては括弧を付けない。

会 長： 11頁だが、遊びは何故大事なのかというふうな問いかけを、新たな3・4頁に入れた上で、再度、11頁に必要なのかどうか。11頁のあたりが、「質の高い幼児教育とはどのようなものでしょうか。」という形でいきなり文章が来ているので、「遊びがなぜ大事なのでしょう。」との文章がつながらなくなる。

K 委員： 読んでてピンとこない。「子どもが主体的に遊ぶ」か、子どもが遊びの中で様々な経験を通して主体的に学ぶのか。「子どもが主体的に遊ぶ」ということがピンとこない。子どもは言われて遊ぶものではないと思うので、たぶん、普通に遊ぶのだろうが、遊びの中で経験をして、主体的に学ぶのかなど。

I 委員： 幼児教育の中で、自主的と主体的の議論が多い。先生がこれをやりましょうとやってやるのは自主的。子どもたちが環境の中で自分たちが穴を掘りだしてやっていくのを主体的という分け方がされている。今アクティブラーニングの中で、主体的にしていこうという中で、わざわざ主体的な遊びを使っているので、幼児教育の中で違和感はないが、言われてみて、わかるように書いた方が良いかと思う。日本の幼児教育界の中で自主的、主体的で迷っているところになる。子どもたちは楽しく遊んでいるが、それは先生の言うことを聞いている範疇である。

D 委員： この部分も、途中の回で私が言ったように、自由保育なのか設定保育なのかというキーワードを出した。幼児教育に関わっている専門家はわかるが、自由保育と聞くと、自由にほったらかしにしているみたい。設定保育といえば、カリキュラムに従ってやっているみたいだというのが、自由保育という方が難しい。子どもが主体的に活動していることに、その中に学びの背景に理論的に持った上で、その子どもにきちとした力を付けさせてあげないといけないということになり、保育者にとってはレベルの高い話になる。ただ、家庭でそれができるかということ、みなさんは区別してないと思う。遊びという説明をきっちりしとかないと伝わらないということを私は何回もいっている。

I 委員： K委員が言われたことは大事な観点である。

J委員： 最初から主体的ということはない。最初から主体的に遊ぶ、学ぶというよりも、色々な関わりの中で主体的になっていくという方向である。

D委員： ひとり遊びから始まり、並行遊び、その上で関わりができていって、自分らでルールをつくってなんかの遊びにしていってという風に、遊びの発達過程というものが見えてないと、遊びと言われてもわからない。保護者は自分の子どもが遊んでいる中で本当にそれで学んでいるのかわからなくなるから、この頁で説明して、13・14頁がわざわざ出てくる話になる。その部分を丁寧に盛り込まなければ、保護者にはよくわからず幼児教育関係者のみわかっているものになるのではないか。

会長： 現状の11から14頁の構造は、11頁で、質の高い幼児教育とは子どもたちが主体的にいろんな体験を通して学ぶことであると記載し、遊びを中心としているということが前半に合って、その説明として12頁の中で、遊びを通して総合的にいろんな力が育っていくということが大事であるということを書いた上で、遊びは面白いからするという結果として育っていているんだよというようなことが後で書かれている。例えば、11・12頁に書かれていることを逆転させるアイデアもある。子どもにとって遊びは楽しいものである。ただ、その結果として子どもたちは実は学んでいるという、前後入れ替えた構造にすることもできる。その時に、自分から楽しいから遊んでいくという主体的な遊びとは何かということについては議論がある。ただ、主体的でない遊びをしてきた経緯というのが、日本の教育・保育の歴史の中にあるし、現状としてもある。ここで、主体的に遊びという文言を入れているということは、伊丹市としてはかなり強い主張をしていることになる。その時の遊びとは何なのかということの押え、位置づけをどうしていくのかということはかなり大きい。

I委員： 順番を変えて、少し書き換えたら、すごく良いアプローチになる。保護者に講演会等で、例えば早くドリルをやったりしたら賢くなると思ってたことが、やっぱり発達にあった泥を触る、虫を探すなんてことで何が育つかと言うことを伊丹市の保護者に伝えていくという力強いアプローチの第一歩として使える。

会長： ストーリーとして、なぜ遊びが必要なのか、そもそも遊びとは何か、面白いからやること、その結果として、色々なことを学んでいるのだと。伊丹市としては、このように遊びを通して、子ども達がいろんな体験を通して学んでいくことこそ、質の高い幼児教育だと考えるんだというような、11・12頁の論理構成にしていくという形でいかがか。これで整理することとする。

会長： 13・14頁はいかがか。

D委員： 花も命がある。オシロイバナをとるという行為自体には、命の感謝、大切さという観点が入った上で、そこへつなげないことには、ぱっととってきてそれをしたとしても、我々が目指しているものではない。

会長： 15・16頁は、これから伊丹市として取り組むことの前ふりがあって、17頁以降で、その内容が入ってきている。それぞれ前文がついたので、かなりわかりやすくなった。特段、大きな意見もなかった。

大きな意見を頂いたのは、19頁。「特別支援の充実」「統合保育の充実」について、いろんな意見があったが、その中で③一人ひとりの子どもの生活状況に応じた支援ということで、特別支援という概念の中でも、貧困、多文化というところも特別な支援だという考え方もある。特別という言葉をわざわざ入れなくても、こういう個別に支援も必要なのではないかという議論の中で、今回、一人ひとりの子どもに応じた支援の充実を図りますということで、③を入れた。いかがか。この方向性で良いか。

あと、21頁、保護者支援。子育て支援ではないかとの意見もあったが、子育て支援というと、子どもの子育てに関わる保護者の支援と、狭く捉えるとそうなるが、保護者自身の支援をしていかないといけないという現状があるということで、広く保護者支援と書いておいた方が市として実施する中身の範疇が広がると思ったので、私の方で保護者支援という位置づけにしたがが良いか。

これで頂いた意見で、議論の必要があった箇所においてはすべて終わったが気になるところがあれば。

K委員： 22頁の下から2行目、「社会総がかり」という文言だが、地域とのつながりを大切にすることから、もっとエリアを広げるのか。敢えて、「社会総がかり」にしたのか。

会 長： 「社会」も「地域」も必要ないため、「社会」を抜いてしまうこととする。

A委員： はじめにの下から2行目。施設、人、範囲を指しており、対象がバラバラである。

会 長： すべて「人」を表わす文言にすることもできる。

G委員： 19頁に写真がないのであれば、もう少し説明が必要である。特別支援を必要とする子どもがいる親が見たとき、特別支援を充実してもらえないと思う。

事務局： 検討する。

F委員： 19頁に「もてる力を高め、」とあるが、「高め」は適当なのか。「発揮する」ではないか。

会 長： ここは、高めなくても持っている力を使うという意味で、「発揮し、」に替える。

会 長： 今後、会長と事務局でとりまとめるということで良いか。一任していただくこととする。

### 3 閉会（省略）